



Apple Watchとは

Apple Watch Series8が新しく発表され、2022年11月現在、公式サイトではSeries8、SE（第2世代）、Ultraの3種類が販売されています。ここでは、Apple Watchの各モデルのスペックや機能を紹介します。

Apple Watchとは

2022年9月に、watchOS9を搭載したApple Watch Series8、SE（第2世代）、Ultraが発表されました。Series8とSE（第2世代）は常時表示Retinaディスプレイと耐亀裂性の高いクリスタルを搭載し、防塵・耐水性能に優れています。Series8では、マップやApple Payなどの基本機能はもちろんのこと、健康や安全に関する機能面でより一層の強化が図られ、皮膚温測定機能や衝突事故検出機能が追加されました。また、バッテリーは18時間持続し、低電力モードを適用することで36時間まで伸ばすことも可能です。今回初登場となったUltraはフラットディスプレイ、ケースは頑丈なチタニウムを採用しています。デジタルクラウンやサイドボタンは大きくなり、新たにアクションボタンも搭載。過酷な環境下での活動を想定して設計されたデザインは、手袋をしたままや、水中でもかんたんに操作できる仕様です。さらに、バッテリーの駆動時間は通常使用で36時間で、低電力モードでは最大60時間まで伸ばすこともできます。



Series8、SE（第2世代）、Ultraの違い

2022年11月時点で販売されているApple Watchには、Series8、SE（第2世代）、Ultraの3種類があります。Series8/SEにはGPS+CellularモデルとGPSモデルがありますが、UltraにはGPS+Cellularモデルしかありません。Series8は最新機能をすべて搭載した機種、SE（第2世代）は皮膚温センサーや常時表示ディスプレイなどを省き、お手頃な価格で販売されている機種、Ultraは従来のApple Watchよりもハード面の強化や高精度の機能を搭載した上位機種です。

●各モデルのスペック

モデル	Series8		SE（第2世代）		Ultra
	GPS+Cellularモデル	GPSモデル	GPS+Cellularモデル	GPSモデル	GPS+Cellularモデル
チップ	S8 64ビットデュアルコアプロセッサ		S8 SiP 64ビットデュアルコアプロセッサ		S8 64ビットデュアルコアプロセッサ
特徴	W3 Appleワイヤレスチップ				
	U1チップ 超広帯域		-		U1チップ 超広帯域
特長	血中酸素ウェルネスセンサー		-		血中酸素ウェルネスセンサー
	コンパス				
	電気心拍センサー		-		電気心拍センサー
	第3世代光学式心拍センサー		第2世代光学式心拍センサー		第3世代光学式心拍センサー
	皮膚温センサー		-		皮膚温センサー
	L1 GPS		-		高精度2周波GPS (L1とL5)
	50メートルの耐水性能		-		100メートルの耐水性能
	高重力加速度センサー				
	ハイダイナミックレンジジャイロスコープ				
	環境光センサー				
バッテリー駆動時間	最大18時間（低電力モードで最大36時間）		最大18時間		最大36時間（低電力モードで最大60時間）
	容量				
	32GB				
通信方式	Wi-Fi (802.11b/g/n 2.4GHz、5GHz)		Wi-Fi (802.11b/g/n 2.4GHz)		Wi-Fi (802.11b/g/n 2.4GHz、5GHz)
	Bluetooth 5.0				
	LTE、UMTS	-	LTE、UMTS	-	LTE、UMTS
Apple Pay	登録したクレジットカードによる、実店舗およびApple Payに対応したApple Watchアプリ内での購入				
	SuicaやPASMOによる、交通機関の利用やショッピングの支払い				
ディスプレイ	第3世代の感圧タッチ対応 LTPO OLED常時表示 Retinaディスプレイ (1,000ニト)		第2世代の感圧タッチ対応 LTPO OLED Retinaディスプレイ (1,000ニト) 常時表示非対応		第3世代の感圧タッチ対応 LTPO OLED常時表示 Retinaディスプレイ (2,000ニト)

Ultraのアクションボタンを利用する

Apple Watch Ultraには、アクションボタンが搭載されています。アクションボタンを押すと、割り当てた機能をすばやく実行することができます。アクションボタンに設定できる機能は「ワークアウト」「ストップウォッチ」「ウェイポイント」「バックトレース」「ダイブ（「水深」アプリ）」「フラッシュライト」「ショートカット」の7種類です。

アクションボタンを設定する

アクションボタンを設定するには、Ultraのホーム画面で \odot をタップし、「設定」アプリを起動します。[アクションボタン] → [アクション] の順にタップすると、機能の一覧が表示されます。機能を選んでタップ、または[なし]をタップしてチェックを付けることで設定できます。

- 1 \odot → [アクションボタン] → [アクション] の順にタップします。



- 2 アクションボタンに割り当てたい機能をタップしてチェックを付けます。



MEMO Ultraでアクションボタン／サイドボタンを長押しする

Ultraのアクションボタン／サイドボタンを長押しすると、電源オフ、コンパスバックトレースの開始、緊急電話のほか、サイレンを鳴動させることができます (P.148参照)。

アクションボタンの長押しは無効にすることもできます。Ultraのホーム画面で \odot → [アクションボタン] の順にタップし、「長押しでオンにする」の \square をタップして \square にします。



Section 09

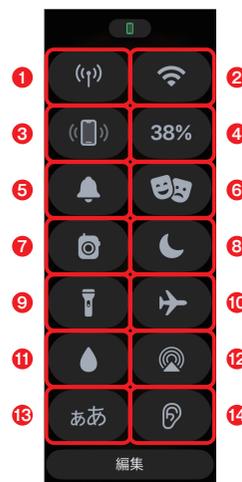
Watch function



コントロールセンターを利用する

コントロールセンターでは、バッテリー残量や通信状況の確認、機内モードやおやすみモードの切り替えなど、Apple Watchの状態を確認したり、設定を切り替えたりすることができます。一部の設定は、ステータスアイコンによって確認できます。

コントロールセンターを利用する



1 タップするとモバイル通信のオン／オフが切り替わります (GPS+ Cellularモデルのみ)。

2 Wi-Fiと接続すると青色になります。タップするとWi-Fiが解除されます。

3 タップするとiPhoneからアラーム音が鳴ります。

4 バッテリー残量を表示します。

5 タップすると消音モードになり、アラーム音を含むすべての音が消えます。

6 タップするとシアターモードになり、再び画面をタップするか、ボタンを押すまでは、画面が暗いままになり音も鳴らなくなります。

7 タップするとトランシーバーを利用できます (Sec.38参照)。

8 集中モードを選んで起動することができます。

9 フラッシュライト。タップすると画面が白く点灯し、懐中電灯の代わりになります。

10 タップすると機内モードになります (P.36参照)。

11 タップすると防水ロックがオンになります (P.39参照)。

12 タップするとAirPlayを利用できます。

13 タップするとテキストサイズを変更できます。

14 タップするとヘッドフォンの音量を変更できます。



ウォレットアプリの パスサービスを使う

「ウォレット」アプリは、Apple Payのほかに、お店のポイントカードなどをまとめて管理できる「パス」サービスが利用できます。パスはiPhoneから追加でき、ペアリングしているApple Watchに同期されます。

パスを管理する

「ウォレット」アプリには、お店のクーポンやポイントカードをはじめ、飛行機の搭乗券、映画館や美術館、イベントの入場券などをまとめて管理できる「パス」と呼ばれるサービスがあります。iPhoneやApple Watchの画面を提示するだけでクーポンやポイントカードを利用することができます。

「ウォレット」アプリに対応したアプリは、Appleの公式サイト (<https://apps.apple.com/jp/story/id1270334375>) で確認することができます。



iPhoneでチケットやポイントカードなどが入っているアプリなどを開き、[Appleウォレットに追加]をタップすると、Apple Watchの「ウォレット」アプリにも追加されます。



サイドボタンを2回押して店舗のリーダーにかざすと、パスを利用することができます。

ウォレットで利用できるパスサービス

● クーポンやポイントカード



お店で使えるクーポンやポイントカードを「ウォレット」アプリで一括で管理できます。

● 搭乗券、入場券などのチケット



チェックインに必要なQRコードやバーコードをApple Watchで提示することができます。

パスを確認する

Apple Watchから追加したパスの詳細情報を確認したり、共有したりできるほか、要らなくなったパスは削除することができます。なお、Apple Watchで削除したパスはiPhone側でも削除されます。

① サイドボタンを2回押して「ウォレット」アプリを起動し、確認したいパスをタップすると、パスの詳細が表示されます。



② 下方向にスワイプして、[パスを共有]をタップすると、連絡先に登録している相手へパスを送ることができます。[削除] → [削除]の順にタップするとパスを削除できます。





アクティビティアプリで できること

Apple Watchの「アクティビティ」アプリは、日々の活動を記録することができます。また、目標を設定し、その目標を達成すると、成果としてバッジを獲得することもできます。

アクティビティとは

Apple Watchの「アクティビティ」アプリでは、「ムーブ」（運動によるカロリー消費）、「エクササイズ」（早歩き以上の運動をした分数）、「スタンド」（椅子から立ち上がった回数）を記録し、それぞれの進捗を3色のリングでわかりやすく表示します。設定した目標の達成度によって、励ましの言葉などが表示されるので、目標達成に対する意欲向上に役立ちます。毎日3色のリングを完成させて、健康的な生活を目指しましょう。なお、長期間の記録はiPhoneの「フィットネス」アプリと「ヘルスケア」アプリに保存されます。

アクティビティの画面の見方



「ムーブ」は、運動によるカロリーの消費を示しています。「エクササイズ」は、早歩き以上の運動をした分数を示しています。「スタンド」は、1日のうち、1時間に1分以上立っていた回数を示しています。

左下の画面でさらに上方向にスワイプすると、「グラフ」「合計歩数」「合計距離」「上った階数」の進捗が表示されます。



「アクティビティ」アプリでは、「ムーブ」「エクササイズ」「スタンド」の3項目を計測できます。リングの外側から赤は「ムーブ」、緑は「エクササイズ」、青は「スタンド」（車椅子の場合は「ロール」）の達成度を表しています。3色のリングがすべて一周すると、1日の目標達成です。

文字盤を「アクティビティデジタル」や「アクティビティアナログ」にするか、文字盤の「コンプリケーション」（P.62参照）に「アクティビティ」を設定すると、文字盤でアクティビティの進捗状況を確認することができます。



画面を上方向にスワイプすると、その日の運動量が表示されます。「ムーブ」「エクササイズ」「スタンド」はそれぞれゴールを変更することができます（P.129参照）。

MEMO 車椅子の設定

車椅子の設定がオンの場合、歩数ではなくプッシュ数がカウントされます。「アクティビティ」アプリの「スタンド」の青いリングは「ロール」に切り替わり、車椅子で1時間に1分以上動き回った回数が表示されます。記録は「フィットネス」アプリと「ヘルスケア」アプリに保存されます。





AssistiveTouchを 利用する

Series6以降とUltra/SE/SE2では、片手のハンドジェスチャだけでApple Watchを操作できる「AssistiveTouch」を利用できます。画面にタッチしなくても操作できるため、片手がふさがっているときに便利です。

AssistiveTouchを有効にする

- ① ホーム画面で  をタップして「設定」アプリを起動します。



- ② 「アクセシビリティ」をタップします。



- ③ 「AssistiveTouch」をタップします。



- ④ 「AssistiveTouch」をタップしてオンにします。



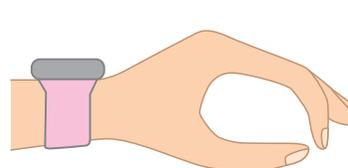
ハンドジェスチャの操作

ハンドジェスチャには、次の項目に移動する「ピンチ」（人差し指と親指をタップ）、1つ前の項目に戻る「ダブルピンチ」（人差し指と親指をすばやく2回タップ）、項目をタップする「クレンチ」（手を握る）、アクションメニューを表示する「ダブルクレンチ」（手をすばやく2回握る）の4種類があります。

「設定」アプリを開いて、[アクセシビリティ] → [AssistiveTouch] → [ハンドジェスチャ] → [詳しい情報] の順にタップすると、ハンドジェスチャの詳しい使い方をアニメーションで確認することができます。

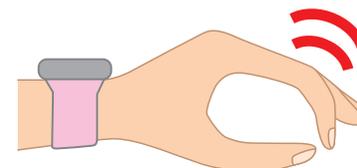
ピンチ

人差し指と親指をタップすることを「ピンチ」といいます。



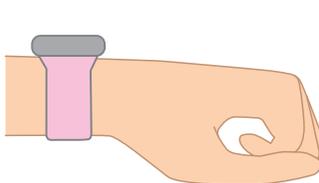
ダブルピンチ

人差し指と親指をすばやく2回タップすることを「ダブルピンチ」といいます。



クレンチ

手全体を握りしめてグーを作ることを「クレンチ」といいます。



ダブルクレンチ

手全体を握りしめてグーをすばやく2回作ることを「ダブルクレンチ」といいます。

